



# 大阪YWCA

12/1

2021/2022

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## 岸田文雄の新しくない資本主義は要らない

浜 矩子



「アホダノミクス」。筆者は、岸田政権の経済運営をこの命名した。「アベノミクス」は「アホノミクス」と呼び変えた。菅政権については、「スカノミクス」を採用した。今度は何にしようか。そう思案していると、ほどなく「アホダノミクス」が思い浮かんだ。

このネーミングの意味は二つある。その一は、「アホノミクス」丸パクリの意。岸田氏が打ち出した「成長と分配の好循環」は、2016年からアホノミクスの大將が使い出した。これを、そのまま使っているだけである。

その二は、「困った時のアホ頼み」だ。岸田氏が自民党総裁選に勝利出来たのは、アホノミクスの大將の画策によるところ大だった。

岸田氏が大本板として掲げているのが「新しい資本主義」だ。これは一体、何物か。どこかどう新しいのか。新しい資本主義は古い資本主義とどう違うのか。イメージが明確化されないまま、言葉が独り歩きしている。

岸田氏は、12月6日に開幕した臨時国会の冒頭で、恒例にしたがつて所信表明演説を行った。その中に、「新しい資本主義の下での成長」という項目がある。その書き出しが「まずは、成長戦略です」。何はともあれ、成長戦略なのだと言言している。このスタンスのどこが「新しい」のか。成長、成長、また成長は、アホノミクス以来の既定路線だ。

「新しい資本主義の主役は地方です。」という文章もある。

地方が主役となることは、大いに結構だ。だが、そのことと「新しい資本主義」はどう結びつくのか。説明がない。

最も驚くのが、「人類共通の課題である気候変動問題。この社会課題を、新たな市場を生む成長分野へと大きく転換していきます。」というくだりだ。そもそも、気候変動問題が人類共通の課題になっているのは、地球経済の過大膨張が地球環境に負荷をかけた過ぎているからだ。成長し過ぎの地球経済が、地球からはみ出してしまつて、様々な異変をもたらししているのである。それなのに、気候変動問題への対応を新たな成長の種に仕立てようとしている。こんな新しさを我々は欲していない。欲しいのは、「新しい

資本主義」ではない。「真の資本主義」だ。日本に善き未来が訪れるためには、徹底した人（ひと）本位主義の確立が必要だ。

### はまのりこ

同志社大学大学院ビジネス研究科教授。エコノミスト。1952年8月3日東京都生まれ。1975年一橋大学卒業、三菱総合研究所入社。1990年4月より98年9月まで同社初代ロンドン駐在員事務所長。帰国後、同社経済調査部長、政策経済研究センター主席研究員を経て2002年10月より現職。専門領域は国際経済学。近著に『共に生きるための経済』（平凡社新書、2020年）、『統合欧州の危うい今』（詩想社、2020年）、『大借金男百問と漱石センセイ』（共著、新日本出版社、2020年）、『スカノミクスに蝕まれる日本経済』（研友首相の思惑と下心）（青春出版、2021年）がある。